

③アセスメントシート

氏名 小森 あおい

記入 相談支援専門員 最上 ひかる

項目		支援が いるか	備考	項目		支援が いるか	備考	
日常生活面	起居動作	起き上がり	☐	衛生保持	手洗い	☐		
		寝返り	☐		爪切り	☒	母にしてもらっていたため自分でしたことがない。	
	姿勢保持	座位	☐		耳掃除	☒	母にしてもらっていたため自分でしたことがない。	
		立位	☐		月経	☒	ナプキンの購入、準備はできない。使用することはできる。	
	移動	屋内	☐	行排泄	排尿	☐		
		屋外 (徒歩)	☒	排便	☐			
	衣類着脱	着脱行為	☐	食事全般	飲食用意	☐		
		服装の選択	☒		食事状況	☐		
	整容行為	歯磨き	☒		声かけ、確認が必要	食事の後片付け	☐	
			☒	声かけ、確認が必要	調理全般	調理	☒	やったことがないため、支援が必要
			☒	声かけ、確認が必要		安全確認	☒	やったことがないため、支援が必要
			ひげ剃り	☐		入浴全般	入浴の準備と片付け	☒
			化粧	☒	入浴		☐	
		家事全般	洗濯	☒	洗濯物干し	☒	やったことがないため、支援が必要	
	掃除		☒	衣類整理	☒	片づけなどは苦手、声掛けが必要		
	所持品整理		☒	所用品整理	☒	片づけなどは苦手、声掛けが必要		
	ペットメイク		☒	やったことがないため、支援が必要				
	特記事項 母親が身のまわりのことを全てしていたため、一人でできることは少ない。あおいさんは、積極的に身だしなみを整えたり、片づけたりすることは苦手だが、声掛けがあればなんとか自分で行える。部屋には物が多く、溜まってしまう。母が全てしていたため日常生活でやらなければならないことの優先順位のつけ方がわからない。家事をやった経験はないが、援助があればできるようになると予測できる（今までの生活の様子から、兄が予測）。 朝起きるのが苦手なため、生活介護の事業所に通う時には遅刻が頻回になることが心配される。							
	コミュニケーション	困ったときに相談している(できる)ところ 生活上の支援機関、支援者など 相談支援センター「こすもす」・・・サービス等利用計画作成 相談支援 デイサポート「アクション」・・・利用予定の生活介護事業所 グループホーム「あおぞら」・・・利用予定のグループホーム 東村病院（内科・精神科）・・・通院している医療機関 意思の表現方法 言葉でのコミュニケーションが十分できる。養護学校の手芸班では時間がかかるが分かるまで教えてくれたので、本人は安心して作業ができていた。手順が分かれば、のみ込みは早い。一方、自分から困ったことや心配なことがあっても相談することができない。周りの人は分かっていると思って作業をすすめてしまうので、本人は分からずにパニックになってしまうことがあった。						
	好きなこと 嫌いなこと	好きなこと SnowManが出ている雑誌やライブDVDを見ること。食べること（特にケーキや甘いもの）。パズル。手芸 嫌いなこと 怖そうな人、すぐに怒りそうな人						
交通機関の利用	移動の方法 徒歩 これまで公共交通機関を利用する機会はなかったが、練習すれば利用できそう							
家庭生活	グループホームで生活をする予定 家庭での主な介護者 介護者の状況 母親 60歳で退職後、近所のスーパーで5年程パートで働く。2年前に認知症が判明。介護保険の訪問介護、短期入所を利用中。あおいさんの面倒を見ることは今後も困難な状況。							

経済状況	主な生活財源 障害基礎年金 2級 受給中 就労による収入 0円 /月 預貯金 0円 金銭管理はできない。金額に見合った金種を出すことが難しく、小銭が使えない。		
行動面	項目	支援が いるか	備考
	行動面での障害1		
	こだわり行動	☒	自分の手順があり、変更されるとパニックになる。
	徘徊	☐	
	無断外出	☐	
	無断外泊	☐	
	錯覚・幻視・幻聴	☐	
	被害妄想	☒	近所の人たちからバカにされていると思っている。
	自殺願望・企画	☐	
	不潔行為	☐	
	異食行為	☐	
	収集癖	☒	SnouManの出ている雑誌やライブDVDを集めたい
	物忘れ	☐	
	反社会的行為 (盗癖、虚言など)	☐	
	行動面での障害2		
	自傷行為	☐	
	他者に対する 粗暴行為	☐	
	器物に対する 粗暴行為	☐	
	奇声や騒がしさ	☐	
	パニック	☒	物事の進め方が分からないとパニックになる。
多動・行動の停止	☐		
思考障害	☐		
感情・障害・思考			
感情不安定	☒	困ってしまうと感情が不安定になる。	
過大・過小評価	☐		

特記事項

特別支援学校卒業後は、同じ市内の作業所を利用し、得意の手芸や農作業、外注の箱折り作業等に取り組んでいた。同じ養護学校の卒業生が多く利用していたため友人もでき、休むことなく利用していた。しかし、30歳になった時に作業内容が変わったこと、仲のよい友人と大好きな職員が辞めたことで行くことができなくなり、作業所を辞めた。

本人は周りの人からは作業のことなどは分かっていてと思われるタイプ。作業の内容や手順で困っていても自分から相談したりできず、どんどん溜め込んでしまい、不安をたくさん抱えてしまう。

10年程自宅で引きこもりの状態。「どこにも行きたくない」「誰とも会いたくない」と気分の良い時以外は外に出たがらなくなった。

母は60歳で退職し、5年程近所のスーパーにパートで働いていた。2年前に認知症が判明。現在は介護保険の訪問介護、短期入所を利用しており、本人との二人暮らしの継続は難しい。

声かけがあれば家のことを少し手伝ったが、どのように進めれば良いのか分からなくなってしまうことが度々あった。母が身のまわりことを全てしていたため、経験が積み重なったのだと思う。

作業については、作業内容が変わったことや仲のよい友人、大好きな職員が辞めたことで本人も行かなくなり離職した。本人より、作業的な活動よりも屋内での活動や得意の手芸などの余暇的活動のほうが良い、との話があり生活介護事業所の利用を希望した。

見守りの環境が整えば、力を発揮することは可能だと思われる。

《その他》

主治医からは、「本人が困っている時に周りが気づける関係性ができると良い。そのためには生活の場でのサポート体制は欠かせない。SOSを出す力をつけられると思っている。」と話あり。

